

飛躍的成長を支える

「真・ダイバーシティ経営」

大和合金株式会社(東京都板橋区)

特殊銅合金の開発・製造・加工・販売を手掛けてきた大和合金株式会社は、創業以来新素材の研究開発に力を注ぎ、自動車、航空機、半導体などの先端分野の進歩に貢献してきた。

「特殊銅合金のグローバルニッチトップ企業」を目標に掲げ、その達成に向けた今後の取組みについて、萩野源次郎代表取締役社長にお話を伺った。



社員と共に売上高100億円を目指す
語る萩野 源次郎 代表取締役社長

先端分野に貢献する 特殊銅合金に特化

——貴社の事業概要について教えてください。

萩野社長 当社グループでは、特殊銅合金の開発・製造・加工・販売までを一貫して手掛けています。三芳合金工業が開発と製造を、当社が加工と販売を担っています。

当社は、元々大手製鋼メーカーの技術者であった祖父が1941年に創業しました。創業当初から特殊

銅合金の開発に取り組み、二代目社長である父が国内での拡販を進め、2012年から私が三代目社長に就任しました。

特殊銅合金は、銅に特定の元素(クロムなど)を微量添加することで、硬度・強度・耐食性などを高めることができる合金です。自動車、航空機、半導体、海底光ファイバーの中間器筐体など、高性能かつ高品質が要求される幅広い分野で活用されています。

現在、当社の柱になっている事業



は半導体と航空機ですが、将来的には核融合と水素などを次の柱とすべく挑戦を続けています。実は、20年前の当社の柱は自動車と金型であり、その頃の半導体や航空機はまだ収益化できていませんでした。新たな柱を育てるには、最低でも10年はかかります。そのため10年後の経営をデザインし、次の柱となる事業分野を見定めるとともに、既存事業と新事業に投入する経営資源のバランスをとっていくことが重要だと感じています。

——貴社の強みについてお聞かせください。

萩野 特殊銅合金は、単に銅と特定の元素を混ぜ合わせて固めるだけでは期待する特性を引き出すことはできません。配合から製造条件(製造工程、塑性加工率、熱処理条件など)に至るまでその組み合わせは無制限であり、かつ極めて高い精度が求められます。加えて、製造した特殊銅合金ごとの異なる特性に応じた加工技術も必要になります。

当社では、創業当初から80年以上にわたり、特殊銅合金に特化し、試行錯誤を繰り返しながらお客さまのさまざまなニーズに積極的に応えて

きました。その結果、現在では特性の異なる約100種類もの特殊銅合金を製造し加工することができます。この積み重ねてきたノウハウこそが、当社の強みといえるのではないでしょう。

「100億宣言」と 「真・ダイバーシティ経営」

——萩野社長が就任されてから、貴社の事業規模は飛躍的な成長を遂げていますが、今後の事業展開についてお聞かせください。

萩野 当社では、「特殊銅合金のグローバルニッチトップ企業」という目標を掲げ、航空機をはじめとする新分野の開拓、海外市場への進出強化などに取り組んできました。その結果、私が社長に就任した当時から現在に至るまでの間に売上高は2倍以上に拡大しています(40億円弱→約90億円)。

今後とも目標の達成に向け成長していくために、常に最先端の技術に挑戦し続け、海外進出にも今まで以上に積極的に取り組んでいくつもりです。

——今年度、貴社では中小企業庁が推進している「100億宣言」を実施しま

したが、これも掲げた目標と関連しているのでしょうか。

萩野 おっしゃる通りです。「100億宣言」については公庫から情報提供を受けて、その詳細を関東経済産業局から伺い、取り組みました。

グローバルニッチトップ企業を目指す当社にとって、売上高100億円は乗り越えなければならぬ壁の一つです。仮にこの壁を乗り越えることができたとしても、組織や人が100億企業に見合わなければ、それ以上の成長は難しいでしょう。だからこそ、これを機に、本気で会社の土台を見直す決意をもって「100億宣言」を行いました。当社では、2028年に売上高100億円を達成するつもりです。

——「組織や人が100億企業に見合わなければ、それ以上の成長は難しい」というお話がありました。貴社の目指す組織体制などについてお聞かせください。

萩野 当社では、年齢、性別、国籍経験の有無を問わず、多様な人材を受け入れており、それぞれの能力や強みを最大限生かせるような組織を目指しています。実際、当社には18歳から80歳代までの幅広い世代が、

また海外人材も9カ国23名が在籍し活躍しています。その中で、シニア世代による若手世代へのノウハウの継承、海外人材による海外市場の開拓などを着実に進めてきました。

イノベーションは多様なバックグラウンドを持つ人材が集まることから生まれます。当社の事業基盤や成長は、真の意味でダイバーシティ経営が浸透したこの組織体制に支えられていると感じています。

——これだけ多様な人材が集まる中、どのように社内での一体感を醸成しているのでしょうか。

萩野 当社では「大家族主義」を掲げており、社員を大家族の一員として扱い、互いに尊重し支えあう社風を重視してきました。この社風の定着が率直な意見交換のできる心理的安全性の高い職場をつくり、そこから集団の知恵が生み出され、会社と社員が共に成長できる関係性を構築してきました。

その結果としてもたらされた利益については積極的に社員に還元しており、2024年は6・3%の賃上げを実施しました。会社の成長により社員の生活を豊かにしていくことで、さらなる一体感を醸成していく

たいと思います。

「工夫・感動・希望」で
高い壁を乗り越える

——今後、公庫に期待することについてお聞かせください。

萩野 企業が飛躍的な成長を遂げるには、最新鋭の機械設備の導入だけでなく、建屋、人材およびDXなど、広範囲に及ぶ改革・改善が必要です。公庫には、これからも共に歩むパートナーとして適時適切な融資支援に加え、補助金をはじめとする情報提供やマッチングなどの本業支援も期待しています。

——最後に、全国の中小企業経営者に向けたメッセージをお願いします。

萩野 当社のような業種はいわゆる3Kと呼ばれることがあります。当社ではこの3Kを「工夫・感動・希望」と社員に伝えていきます。一人ひとりが、仕事上の困難な課題を達成する苦労と成功の喜びを味わうことで成長すれば、会社も成長できます。

グローバルニッチトップ企業になるためには、これからもたくさん高い壁が待ち受けていますが、社

員と共に乗り越えていきたいと思っています。



多様な人材が活躍する三芳工場



大和合金株式会社

本社：東京都板橋区前野町2-46-2
代表者名：代表取締役社長 萩野 源次郎
資本金：4,500万円
従業員：49名（+三芳合金工業131名）
事業内容：特殊銅合金の開発・製造・加工・販売
（自動車・鉄鋼・半導体・光ファイバー・航空機・鉄道・船舶・建機・Fusionエネルギー・金型等の分野）

会社設立：1941年

ホームページ：<https://yamatogokin.org/jhp/>